

市町村名	竹富町										
令和4年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート											
事業名	ドローンを活用した物資輸送実証事業					事業類型	☐	産業振興			
							☒	定住促進			
							☐	その他			
担当部課名	政策推進課	現年事業または繰越事業	☐	現年事業	事業実施 (予定)年度	令和1 ～ 3年度					
			☒	繰越事業							
事業内容	船舶が欠航した際においても離島住民が必要とする物資を輸送する手段を確保し、離島における定住環境を向上させる。										
	先導性等に係る取組	☐	自立性	☒	政策間連携	☐	離島活性化を担う人材の確保・育成				
		☐	官民協働	☐	事業推進主体の形成	☒	その他				
		☐	離島地域特有の条件不利性に起因するもの								
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(令和5年度)										
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()										
予算額・ 執行額 【単位:円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)	予算 の 状 況	当初予算額	11,092	49,810	4,792	0	0				
		増減額	0	0	63,184	0	0				
		予算現額	11,092	49,810	67,976	0	0				
		前年度から繰越	0	0	0	67,976	0				
		翌年度へ繰越	0	0	67,976						
		計(A)	11,092	49,810	67,976	67,976	0				
		執行済額(B)	11,092	49,786	0	67,976					
	うち補助金充当額	8,872	39,828	0	54,380						
	不用額	0	24	67,976	0	0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	#DIV/0!					
	予算の状況の説明	令和3年度から令和4年度に繰り越した事業については、不用額は生じず繰り越した事由に沿って適切に執行が出来た。									
	活動目標 (指標) 及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況							
				令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度			
全天候型のドローンを導入		目 標				1機					
		実 績				1機					
ドローンを運航するオペレーターの育成		目 標				2名以上					
		実 績				2名					
達成状況説明		○物流事業の中核となるドローンを導入。全天候型及び高い飛行性能と耐風性能を有するシングルローター型となっている。 ○導入したドローンに合わせた操作技能やメンテナンスについての講習を受講させ、オペレーターの育成を行った。									

成果目標 (指標) 及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値 (年度)	年度	年度	年度	後年度目標値 (令和5年度)
	ドローン物流事業への参入事業者数	目 標					1社以上
		実 績					1社
	成果目標(指標)		基準値 (年度)	年度	年度	年度	後年度目標値 (令和5年度)
	ドローンを活用した物資輸送回数	目 標					994回以上
		実 績					1回
進捗状況説明	ドローン物流事業へ1社参入があったものの、国土交通省への飛行申請～許可が下りるまでに6か月の期間を要したこと、また、メーカーが実施する飛行前のオペレーター技量確認及び飛行体制の再確認に4か月の期間を要したことなどから、物資輸送回数が1回となっている。						

取組の検証	成果目標に対する原因・要因分析	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	○飛行前の必要手続きにかかる期間の見積もりが不十分であった。 ○2名のオペレーターの技量に差が生じている。 ○物資輸送回数の数値目標については、需要やドローンのスペックに対して過大である可能性がある。	○各種必要な手続きに関して、漏れや認識不足がないか再度精査する。 ○オペレーターに自主訓練日誌等を記録してもらい、技量向上の支援を行う。 ○需要やドローンのスペックに見合った現実的な数値目標の設定を行う。

今後の取り組み方針
○各種必要な手続きの一覧表作成やマニュアル化の検討を行う。 ○ドローンメーカーに相談しながら、オペレーターの技量強化に向けた検討を行う。また、定期的に2名のオペレーターが合同訓練できるよう調整を行う。 ○船舶の欠航率は、ドローンでの物資輸送の需要に関わってくることから、過去の欠航率とリンクさせ、ドローンのスペックも鑑みた新たな数値目標を設定する。

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>補助対象事業費</th><th>補助金充当額</th><th>市町村負担額</th><th>補助対象外経費</th></tr><tr><td>67,976</td><td>67,976</td><td>54,380</td><td>13,596</td><td>0</td></tr></table>					総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担額	補助対象外経費	67,976	67,976	54,380	13,596	0
総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担額	補助対象外経費										
67,976	67,976	54,380	13,596	0										
<table><tr><td>竹富町 67,976千円</td><td>→</td><td>委託料 67,976千円</td><td>→</td><td>株式会社ブルーオーシャン・ 沖縄セルラー電話株式会社(共同企業体) 67,976千円</td></tr><tr><td colspan="4"></td><td>委託内容 ドローンを活用した物資輸送民生化事業</td></tr></table>					竹富町 67,976千円	→	委託料 67,976千円	→	株式会社ブルーオーシャン・ 沖縄セルラー電話株式会社(共同企業体) 67,976千円					委託内容 ドローンを活用した物資輸送民生化事業
竹富町 67,976千円	→	委託料 67,976千円	→	株式会社ブルーオーシャン・ 沖縄セルラー電話株式会社(共同企業体) 67,976千円										
				委託内容 ドローンを活用した物資輸送民生化事業										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者プロポーザルで選定しており、妥当であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	県内に本事業に対応できる企業が乏しく、また継続事業としている為、1社見積としている。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	—											
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途に関しては、予算要求時に財政担当の査定を受けており、かつ、精算時において確認することで適正性を確保している。											